

ボウリング界激震!

新型コロナウイルス感染拡大の余波で KUWATA CUPが開催中止に



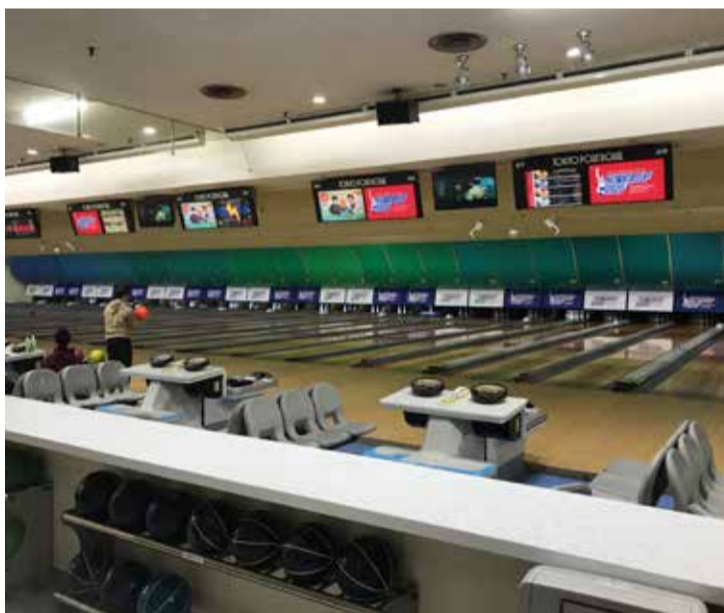
昨年末に中国・武漢で発生した新型コロナウイルスによる感染症は、その特性や感染経路が不明なまま、瞬く間に世界中へ拡散。ヒト→ヒト感染の事例増加に伴い、各界で「不特定多数との濃厚接触が不可避な」イベントの開催を自粛(中止・延期)する動きが加速していった。ボウリング界も例外ではなく、2月18日には「KUWATA CUP2020～みんなのボウリング大会～」が公式サイト上で本大会(20～22日、品川プリンスホテル B/C&東京ポートボウル)及び準決勝・決勝大会(22～23日、渋谷ヒカリエホール特設レーン)の開催中止を発表。本大会を目前にしての決定に、業界には衝撃が走った――。

KUWATA CUPの主催社アミューズが本大会及び準決勝・決勝大会の開催中止を決断し、同大会実行委員会のメンバーに周知したのは、公式サイトに情報がアップされた18日正午の約12時間前、同日午前零時前後のことだったという。

公式サイトには、中止決定に至った理由として、飛沫感染と接触感染の2つが考えられていた当時の状況を前提に、以下の5点が挙げられている。

- ボウリングでのコミュニケーションの特性上、選手同士または選手と観客がハイタッチなどの直接的接触を行う状況がある
- 試合において、選手同士が「濃厚接触」と言われる「対面で会話することが可能な近距離」で長時間接触する
- 競技の特性上、ボールやタオル・ピンなど器具等を介した接触、または媒介物同士の接触が考えられる
- アマチュアボウラー部門においてジュニア枠及びシニア枠を設けており、幅広い年齢層の選手が出場する史上最大規模のボウリング大会である
- 上記のような環境下で開催が4日間に及ぶ

要は出場選手やギャラリーの安心・安全を最優先に考慮した末の決断だということ。発表が本大会2日前というタイミングだったことに、ギリギリまで開



▲大会の中止が決まっても、東京ポートボウルの会場装飾はKUWATA CUP一色だ(2月27日)

催の可能性を模索していた?主催社の苦渋の思いが覗く。

前日の17日には、東京マラソン財団が今年度の大会(3月1日開催)における一般ランナー3万8000人の参加中止を決定。小池百合子都知事がその旨をアナウンスし、世間的に大きな反響を呼んだことも少なからず影響したのではないかと。

ちなみに、公式サイトには「この度の感染拡大が収束する目的については、現状では判断ができない状況にあるため、現状では一旦中止のご案内とさせていただきます、この先の新型コロナウイルスの被害の状況を見ながら、順延も含めました大会開催の可否を検討し、改めてお知らせさせていただきます(原文マ

マ)」と記され、仕切り直しでの開催に含みを持たせている。

日本ボウリング場協会の中里則彦会長は「KUWATA CUP中止の判断については致し方ないと思います。ただセンター予選、県予選を勝ち抜いて本大会への切符を手にしたアマチュアボウラーのことを思うと、このまま中止とするのではなく、今後その人たちの権利を生かせるような方策を取っていただければ」と期待を寄せる。

また、本大会の女子会場となる予定だった東京ポートボウルの東海林忠勝支配人も、前年同様 KUWATA CUP一色の会場装飾をそのままにして、大会の継続を業界の内外にアピールしていく意向だ。

▲本来なら決勝大会が行われていたはずの2月23日午後、ヒカリエホールの入口前には、中止を知らない来場者に対応すべく、アミューズのスタッフが3名待機していたが、本紙記者が居合わせた間に訪れた人は皆無だった

住建ハウジング主催大会も中止

KUWATA CUPの中止決定から2日後の2月20日には、3月15日に東京ドーム B/Cで開催が予定されていた新設トーナメント「住建ハウジングプレゼンツ・チャンピオンズカップ」の中止が決定した。こちらはJPBAサイドから冠スポンサーの住建ハウジングに開催見送りを申し入れ、協議した末の結論だという。

同大会は男女各34名のトッププロによる史上初の混合戦として、ワンデーターナメントながら総額2600万円・優勝500万円という破格の賞金が用意されていた JPBA特別承認大会。2月6日には渋谷区外苑前(旧・東京ボウリングセンター跡地)の TEPIA先端技術館で盛大な記者発表会が開かれ、一般メディアでも大きく取り上げられていただけに、JPBAとしても断腸の思いだっただろう。

2月27日、JPBAは「ラウンドワン・グランドチャンピオンシップ」の選抜大会(静岡・ラウンドワン富士店)を無観客で

開催。今年度の第1次プロテスト(4月7～10日、東日本地区4会場&西日本地区2会場)も無観客(受験生の関係者・コーチを含む)で施行する予定だが、関西オープン(=女子/3月26～28日、牧野松園ボウル)、宮崎プロアマオープン(4月16～19日、宮崎エースレーン)の公式戦2大会はいずれも順延を決めた。後者は9月へのスライドが内定。前者も年度内の開催を目指す、下半期は女子の大会が多く、調整は難航しそうだ。

大会中止はプロの公式戦にとどまらない。3月に愛知・稲沢グランドボウルで開催予定だった ABBF全国実業団支部対抗選手権(14～15日)と JBC全日本ボウリング選手権(19～22日)はいずれも中止。JBCはラウンドワン・グランドチャンピオンシップの予選会(2月29日、3月7日、14日)も取りやめた。

大会の規模を問わず、こうした状況は新型コロナウイルスの感染拡大が収束するまで続くだろう。



▲チャンピオンズカップの記者発表会には写真の4選手が出席し、各々画期的な大会に向けての抱負を語っていたのだが…(2月6日、TEPIA先端技術館)